



本殿

①本殿

明治19年建築。

いりもやづくり ひわだぶき
木造入母屋造檜皮葺、建築面積62㎡。

こうはい ししばな かごぼり たばさみ
向拝の獅子鼻、籠彫の手挟など彫刻で飾つ

た華麗な大規模社殿です。

造形の規範となる建造物として評価されました。



拝殿及び幣殿

②拝殿及び幣殿

明治19年建築。明治32年・昭和33年増築。

もくそうきりづまづくりつまいりどうばんぶき
木造切妻造妻入銅板葺、建築面積100㎡。

明治32年に幣殿を増築し、昭和33年に拝殿の向拝及び両側面部を増築しています。

りょうさげづくり
拝殿後方に両下造銅板葺の幣殿を接続しており、増築によって変化ある屋根構成が優美な社殿です。

歴史的景観に寄与する建築として評価されました。



神門

③神門

昭和33年建築。

やつあしもん ま
木造切妻造銅板葺の八脚門。間口7.9m。

くろき りさぶろう
設計は黒木利三郎。

のきぞ
軒反りが優美で、参道を見通す開放的な造りであり、境内の軸線を強調しています。

造形の規範となる建造物として評価されました。

宇美八幡宮

二千年以上続く鎮守の杜に育まれた子安の杜

宇美八幡宮は安産信仰で有名な八幡宮です。

『古事記』や『日本書紀』に、神功皇后が応神天皇をじんぐうこうごう おうじんてんのうご出産された地とあることから、境内全体が、福岡県指定有形民俗文化財「宇美八幡宮の安産信仰に関する伝説地」に指定されており、安産祈願やお宮参りに訪れる参拝の人々で賑わっています。

びだつ
社伝などによると、敏達天皇の時代に創建されたとあり、人々の認識としては、6世紀の後半頃の創建と伝えられてきたようです。初めて確実な史料に登場するのは平安時代で、石清水文書「宮寺縁事抄」の天喜3年(1055年)の記録に宇美八幡宮のことが記述されています。

古くから続く安産祈願

いまかがみ このえ
平安時代後期の様子を記した歴史書『今鏡』に、近衛天皇のご誕生祈願と伝わる記述がみられます。

鎌倉時代には、京の貴族が、宇美八幡宮の槐の木を用いて、三寸八分の薬師像を作り、安産祈願を行ったという記録があります。江戸時代もその流れは続き、寛政11年(1799年)に、こうかく光格天皇の第四皇子で後の仁孝天皇のご誕生祈願のために、宮中の使者が宇美八幡宮へ来訪されています。また、江戸時代福岡藩を治めた黒田家が、戦国時代に荒廃した宇美八幡宮の復興や社領寄附など支援するとともに、安産祈願を行っていた記録も残っています。

クスの杜と宇美神楽

境内は、樹齢2000年以上と伝わる国天然記念物「湯蓋の森」「衣掛の森」をはじめたとしたクスの群生に囲まれています。年間を通して様々な祭りが執り行われており、春の子安祭や秋の放生会では、福岡県指定無形民俗文化財の宇美神楽も奉納されます。

問 シティプロモーション課 文化財保護活用係 ☎934-2370 FAX934-2371